

令和2年度全建賞受賞 稚内港末広ふ頭岸壁改良事業 —既存施設を活用した大型旅客船に対応した整備—

北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所

この度、令和2年度全建賞として、「稚内港末広ふ頭岸壁改良事業 —既存施設を活用した大型旅客船に対応した整備—」が受賞いたしました。

本事業は平成28年度に整備検討を開始、平成29年度から現地の施工を始め、平成31年1月に工事が完了したところです。



稚内港の全景

今回の受賞では、大型クルーズ船の寄港要請に対して早期に対応するため、既存施設を活用し、ドルフィン形式での改良を実施して、既設岸壁構造をそのまま延伸した場合と比較して、半分以下の期間で工事を竣工させるとともに、コスト削減を図った点が評価されました。

事業実施にあたり、調査・設計業務を行ったコンサルタント、工事を安全に施工した建設会社、事業実施に対してご協力いただいた施設利用者や関係者の方々及び国土交通省の関係各位に対しまして、御礼申し上げます。

宗谷地方の日本海側には利尻礼文サロベツ国立公園が広がり、利尻島や礼文島にも多くの観光客が訪れるほか、クルーズ船を利用した観光客も来訪しており、地域経済にも大きく寄与しています。稚内港においても、クルーズ船の寄港について船社や旅行会社などから多くの問合せが寄せられ、地元関係者から大型クルーズ船を活用した観光振興に対する期待が高まっておりました。

しかしながら、北海道への寄港実績が多い12万トン級の大型クルーズ船が安全かつ円滑に係船する施設は無いことから、大型クルーズ船に係留できる施設の

早期整備が必要となりました。



係留ビット完成状況

そこで、既存施設である末広ふ頭東岸壁240mを活用し、その延長方向に係留用ビットを2基増設することで係留に必要な延長350mを確保しました。係留用ビットの構造は早期の整備効果発現と建設コスト削減を実現するドルフィン形式を採用しました。係留用ビット間には係船作業時の安全性と効率性を確保するため連絡橋を架設しました。

この構造形式で整備することにより、工事期間を2年という短期間で完成することができ、建設コストも既設岸壁構造をそのまま延伸する場合と比較して大幅に削減することができました。これにより、整備直後からクルーズ船が寄港するなど、早期に整備効果が発現し、今後も大型クルーズ船の寄港により、本事業は地域活性化に大きく貢献することが期待されます。

地元関係者からの整備要請に対して、短期間での工事完成や建設コストの削減、既存施設の有効活用など事業実施における様々な工夫を求められるなか、本事業の整備が今後の参考事例として有効活用されることを期待するとともに、改めて本事業に関わりご尽力いただいた方々に感謝いたします。



旅客船「飛鳥Ⅱ」ビット使用状況(左)、入港歓迎セレモニー(右)